

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

全日本民医連 救急・総合診療研究会 学術交流集会in沖縄

去る1月25日(土)、26日(日)に全日本民医連救急・総合診療研究会第5回学術交流集会を開催し、県外県内から120名にご参加いただき、無事終了することが出来ました。

全日本民医連に加盟している全国の医療機関から医師や看護師等が来沖し、「地域が求める医療 ～救急と総合診療のこれからのカタチ～」をテーマとして、闊達に議論を深めることができました。

救命救急は「医」の原点であり、すべての国民が生命保持の最終的な拠り所としています。我々救急医は、消えようとしている命の灯を照らし続けるために、24時間365日、最後まで諦めずに患者に寄り添い救命医療を行っています。

沖縄協同病院は民医連綱領にもあるとおり、「人権といのちの尊厳を守る無差別平等の医療」、「地域と共に平和で健康に暮らせるまちづくりを行う」ことを理念に掲げ、断らない医療を大切に日々の医療活動を行っています。今後も救命医療の発展に取り組んで参ります。

研究会へ参加いただいた皆様、事務局として尽力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

実行委員長 伊良波 禎(沖縄協同病院 救急科部長)



産婦人科外来体制表

○2025年2月1日より外来体制が変更になります
○2023年3月より予約制外来となりました

	月	火	水	木	金	土
午前	交代		交代		交代	
午後	交代		交代	1ヶ月健診	交代	

《診療開始時間・受付終了時間》 午前:9:00~12:00 午後:2:00~3:00

◆体制は急に変更になることもあります、事前にお問い合わせ下さい。
◆産後2週間健診は、産後の方を対象に健診及び母乳ケアを行います。

病院の活動状況
<2024年12月度>

- ・外来一日平均患者数：305人（前年同月比 -1人）
- ・入院一日平均患者数：261人（前年同月比 +1人）
- ・組合員利用分量（率）：59.2%（前年同月比 +5.4%）



<お礼>

親愛なる病院の8階病棟スタッフの皆さま、そして〇〇医師へ

拝啓

このたびは、入院中に大変お世話になりましたことへの感謝のきもちをお伝えしたく、筆を執りました。私が入院している間、皆さまは常に温かさ、思いやり、そしてプロフェッショナリズムをもって支えてくださり、そのおかげで困難な時期に希望と安心を感じることができました。

〇〇医師へ

私の病状への細やかなご配慮、的確な診断、そして献身的なフォローアップは、先生の卓越した責任感と倫理観を体現しておられました。心から感謝申し上げます。いつも優しさに満ちた対応をいただけたことも、大変ありがたく思っております。

素晴らしい8階病棟の看護師とスタッフの皆さまへ

皆さまの忍耐力、細やかな配慮、そして温かい笑顔のおかげで、困難な瞬間もずっと楽に乗り越えることができました。看護とは単なる職業ではなく、人類愛と献身の真の行為であることを改めて教えていただきました。

皆さまの健康と今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

敬意と感謝を込めて 〇〇 〇〇より

手術に必要な麻酔薬がたりない

216 麻酔科より



沖縄協同病院では、昨年は2100件余りの手術が行われました。手術をするためには、痛みをとるために、麻酔は欠かせません。麻酔は全身麻酔と局所麻酔があり、私たちが麻酔科医は、手術や患者さんの状況に合わせて、麻酔薬を選択し使用しています。

さて、日本で今、非常に深刻な「薬不足」が起こっています。多くの患者さんが、そのことを実感していると思います。一時的な買い占めなどではなく、薬局でも病院内でも、「薬自体がない」という事態が起きているのです。手術に欠かせない局所麻酔薬や麻酔薬、抗がん剤の不足のために、緊急を要しない手術の患者さんに、手術日を先延ばしにしているケースも起きているのです。当院では幸いにも手術を先延ばしにする事態は起きていませんが、アナペインという局所麻酔薬を一部制限したり、代替品を使用したり、フェンタニルという、医療用麻酔薬に関しては、手術や術後の鎮痛に優先して、使用するなどの制限をかけています。

いま起きている薬不足の要因はいろいろありますが、根本の一つに、国の医療費抑制策があります。国が公的に定める薬価は、定期的に見直されており、実質的にほとんどの薬がどんどん価格を引き下げられる状態が続いています。それによって赤字を生み出す事態となれば、製薬企業は製造販売を中止せざるを得なくなり、ますますジェネリック医薬品を普及させる、という国の施策も同様です。医療費の削減は、必要なことですが、必要な人に必要な時に薬が届かないのは、本末転倒です。もちろん私たち患者自身も、薬があることを決して「当たり前」と思わず、誰もがその貴重さに気づいて、行動することが求められています。

日本の健康保険制度は素晴らしいものだと思いますが、その運用は非常に困難な状況となっています。軍費を増やすより、まずは国民の暮らしを支える、医療・福祉に私たちの税金を優先して回すよう要求していきます。

麻酔科医 座波 政美

「紹介受診重点医療機関」について

2025年4月1日より、外来機能の明確化を図る目的で紹介状を持たずに受診した場合等に発生する「選定療養費(特別な料金)」が変更になります。



事務長
新垣 哲治

(背景と目的)

外来医療について、患者の医療機関選択にあたり外来機能の情報が十分得られず、いわゆる総合病院志向がある中、一部の医療機関に集中し待ち時間や勤務医の外来負担等の課題が生じています。人口減少・高齢化及び外来医療の高度化等が進む中、外来機能の明確化・連携を進めていく必要があります。このような状況を踏まえ、今般良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部が改正されました。この改正により、令和 4 (2022) 年 4 月から外来機能報告制度が創設され、地域の医療機関の外来機能の明確化・連携の議論が進められています。

紹介受診重点医療機関は、外来機能の明確化・連携を強化し、患者の流れの円滑化を図るために都道府県ごとに決定される医療機関です。患者がまず地域の「かかりつけ医療機能を担う医療機関」を受診し、必要に応じて紹介を受けて紹介受診重点医療機関を受診する、その後状態が落ち着いたら逆紹介を受けて地域に戻る、といった受診の流れを明確にするのが目的です。

(今後の当院の対応について)

沖縄協同病院は、地域の中核病院として、高度・専門的な検査・治療のより一層の推進のため、「紹介受診重点医療機関(医療資源を重点的に活用する外来)」の指定を受けるべきと判断し現在に至りました。今後は他の医療機関からご紹介いただいた患者さんを中心に診療を行っていくことになります。緊急性の高い状態や、時間外での発症を除いて、「紹介受診」が原則となります。なお国は、外来機能の明確化・連携を進める観点から、選定療養費という制度により、紹介状を持たずに外来受診した患者等から、一部負担金(3割負担等)とは別に、「選定療養費」を徴収することとしています。

患者さんには、大変ご不便をお掛けいたしますが、今後は「病状が安定している定期通院」や「急を要しない比較的軽症な症状」などの場合は、まずは、かかりつけ医療機能を担う法人事業所(とよみ生協病院や協同にじクリニックなど)又はお住いの地域開業医などを受診し、必要に応じて紹介を受けて頂く流れになります。ご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

次号へ続きます。



儀間結音ちゃん



橘乃愛ちゃん



比屋根貴優ちゃん



私の部署の好いところ

7 階 病 棟



コロナ病棟から総合内科病棟へ戻りそろそろ2年が経ちます。コロナ禍からの時間を戻すためにスタッフみんな日々の業務に奮闘中です。

7階病棟は明るく元気なスタッフが多く毎日賑やかです。落ち込んでいても笑い飛ばしてくれたり、親身になって相談に乗ってくれたり、働きやすい環境を作ってくれるスタッフ皆に感謝しています。

これからもチーム一丸となって毎日頑張っていきます。今後も7階病棟をよろしくをお願いします。

7階病棟 看護師 佐次田 梨帆

委員会活動報告 33: 医療情報システム委員会

私たちは医療情報システム委員会です。

院内にあるコンピューターシステムの改善を行ったり利用のしかたを工夫することで効率的かつ安全な医療を実現することを目的としており、メンバーはシステムエンジニアや医師、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、リハビリ職、管理栄養士、医療事務、医師事務作業補助者など幅広い立場から構成されています。

私たちの活動を皆様が直接目にする機会はあまりないかもしれませんが、コンピューターシステムを通して医療を支えています。

事務局長(医療情報分析室 室長) 大田 敬太



ハルサーだより

熱帯化

生、動物の異常行動。熱帯化は確実に忍び寄ってきている。さて、1月20日にアメリカファーストを掲げる大統領が誕生した。就任と同時に地球温暖化対策の枠組みである「パリ協定」からも離脱した。そしてロシアに対しては高い関税を圧力に「ばかげた戦争はやめろ」と迫っている。真意なら熱帯化の停止は無理でも戦争の停止は双方が納得する条件で有言実行してほしいものだ。

ハルサー 金城 稲子

の原因が…。一部の実は高温による花落ちと裂果で100kg近くは出荷できず。今年の収穫は例年の半分あればいい方だ。さらに露地植えのブロッコリーなどは鳥害で見る影もない。犯人はタイワンシロガシラである。30羽ほどの集団で行動する。寒紗の破れた穴にくちばしを入れて食い尽くす。今まではシロガシラがナスナバーやジャガイモの葉を食べるのは見たことがなかったのだが…。シロガシラは頭がいい。ハウスに入った際、場所を覚えていて捕獲しようとしたらさっと逃げる。捕獲したものを手のひらで握ると首を折って死んだふりをする。びっくりして手を広げるとさっと飛んでいく。知患者だ。ハウス内ではインゲンの蔓がcaじられて上半分が枯れた。犯人はネズミだ。インゲンには目もくれず蔓をかじるので葉の上に木くずが積もっている。ネズミは歯が一生伸び続けるため、歯を削るためにかじると言われるがインゲンの蔓がcaじられているのは初めてだ。高温、害虫などの大量発生、動物の異常行動。熱帯化は確実に忍び寄ってきている。

ハルサーになって10年近くになるが今期ほど未来に不安を覚えた年はない。トマト栽培は定植して2カ月で7割がウィルス(黄化葉巻病)に感染した。高温でウィルスを媒介する虫(コナジラミ)が異常発生した